

日本橋老舗企業に学ぶ経営の知恵～日本橋的経営のススメ～

2

【創業は易く守成は難し】：「十八史略」（唐）より

日本橋は世界屈指の老舗集積地域。東京中央区の一地域でありながら、約二百社以上の老舗が現存する脅威の商業地域である。このコーナーでは各回一店舗ずつ老舗を取り上げ、老舗に共通する経営特徴から「経営の秘訣」を探る。

日本橋めぐりの会 日本橋アクティバガイド
遠藤梨栄

美と味を売る

「八木長本店」は創業二百七十二年、の鰹節と乾物を扱う老舗である。最近では便利な小分けフレッシュパックが普及し、鰹節を削る家庭も珍しくなってきた。ブランドや産地にとらわれず厳選した質の高い商品は、通をも喰らせる美味しさである。

「海老屋美術店」は創業三百三十五年の老舗骨董屋である。調度品や家財道具は容易に手頃な物が買える時代になつた昨今、時代と場所を超えて静かに語りかける骨董の品々には、既製品とは比べられない味わいと魅がある。

物を見る

鰹節はプロでも見極めが難しい、

人を見る

「八木長」の取引基準は相手の人柄だという。儲けの

ために信用のない者と短期的な取引をするよりも、信

手のかかる商品である。質の選別にマニュアルやわかりやすい基準はなく、触感や香りなど長年培われた感覚だけが頼りである。鰹節の美味しさと形の良さは、必ずしも一致しない。質や味の良し悪しを感じする美意識がものを言う。

骨董鑑定の見極めもまた難しい。精巧な贋作や紛いものも多く、判定は個人の鑑識眼に依存する。質感や匂いなど五感を使って吟味するといふ。良いものや本物をたくさん見て目を養うと同時に、身銭を切って失敗を重ねながら目利き力を身につけていく。

鰹節も骨董も仕入れて売るといつた「物の真価」を見極める職人の洗練された技が光る。

人を見る

「八木長」の取引基準は相手の人柄だという。儲けのために信用のない者と短期的な取引をするよりも、信

用のおける者と長く付き合える取引をする方が、商売の理に適っている。信用できる人かどうかは長い経験と勘だ。騙し合いは商売の常、信用ある取引関係を築くことが商売の要である。

「海老屋美術店」もまた信頼に支えられた商いをしている。骨董屋にはそれぞれ得意分野があり、同業者が仕入れる場合など、相手の信用が決め手である。同業者や顧客との強い信頼関係が、長く続く商いを支える礎となる。

多発する偽装や粉飾は、名前やブランドに頼り、自分の目で見て確かめることを忘っているからではなくだろうか。物ではなくその真価、うわべではなくその人の本性を見抜く力を鍛えたい。サブプライムローンや新銀行東京の問題は、信用が無担保無保証ではなく、さらに形式的融資基準を超えたものであることを物語っている。融資内容や「その人」に貸す価値や意義があるがどうかを考慮する必要がある。

- ① 「磨礪はまさに百炼の金の」とくすべし、急就は速養にあらず
② 洪自誠『菜根譚』（中国・明）

機械や技術がどんなに発達しても素人が容易に判別する術はないだろう。かすかな徵候から物の本質や美、真価を感じとする才能は芸術的ですらある。これが老舗の魅力や愛着に通じているのではないかろうか。

② 「徳は事業の基なり」
：洪自誠『菜根譚』（中国・明）

商売は才能だけではなく、人格、人徳からくる信用が欠かせない。短期的な利益のみを追わず、長期的な信用があるということも、老舗の条件となる。



海老屋美術店

企業基本情報

①株式会社 八木長本店
屋号：「八木長本店」
創業地：日本橋（ルーツは伊勢との推測）
代表者：八代目 八木長兵衛
事業内容：鰹節、乾物の販売
創業年：1737年（元文2年）
資本金：1,000万円
売上高：非公開
社員数：12名
所在地：日本橋室町1-7-2
電話：03-3241-1211
URL：
<http://www.yagicho-honten.jp/>

②株式会社 海老屋美術店
屋号：「海老屋美術店」
創業地：日本橋
代表者：三宅正洋
事業内容：古美術品の販売
創業年：1673年（延宝元年）
資本金：1,000万円
売上高：1,000万～2,000万円
社員数：3名
所在地：日本橋室町3-2-18
電話：03-3241-6543
URL：
<http://e-ebiya.com/>

八木長本店



八代目ご主人の八木さん



九代目店主の三宅さん